



ふくしまスタディツアー報告 ～大学生の私たちにできる 情報発信～

E班

中島珠子

谷本夏音

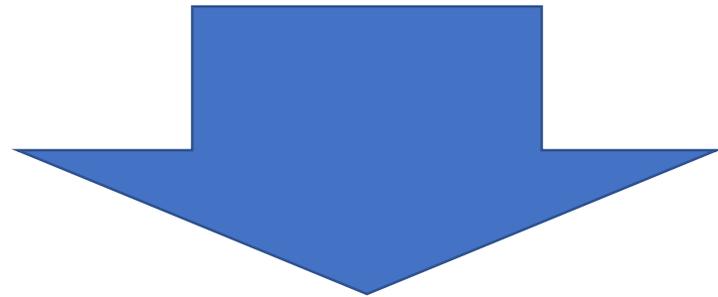
渡辺世奈

杉山和香

佐藤寛乃

高橋春香

スタディツアーを終えて、
大学生の私たちにできる
情報発信について考えて
みた



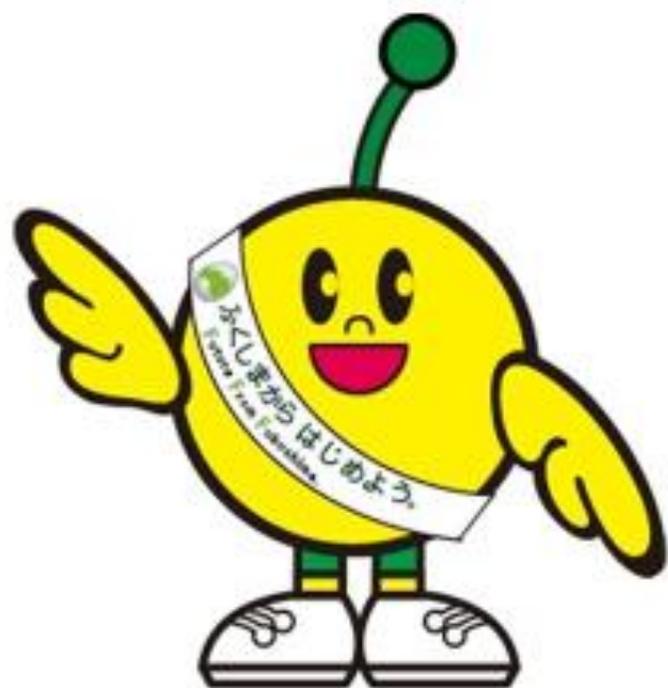
私たちが考えた2つの情報発信

SNSによる情報発信

- Facebook
- Instagram
- Twitter

SNS以外の情報発信

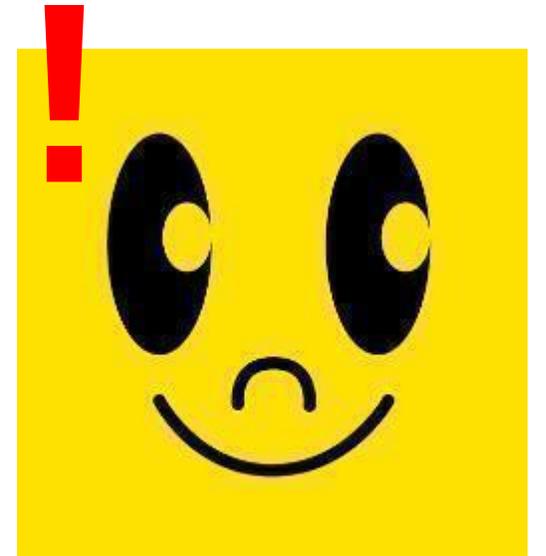
- 大学の掲示板
- 友人や家族への口コミ



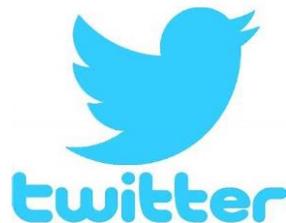
① SNSによる情報発信

☆私たち大学生は普段SNSに投稿する際に、
使い分けをしていることが

発覚



Twitterの場合

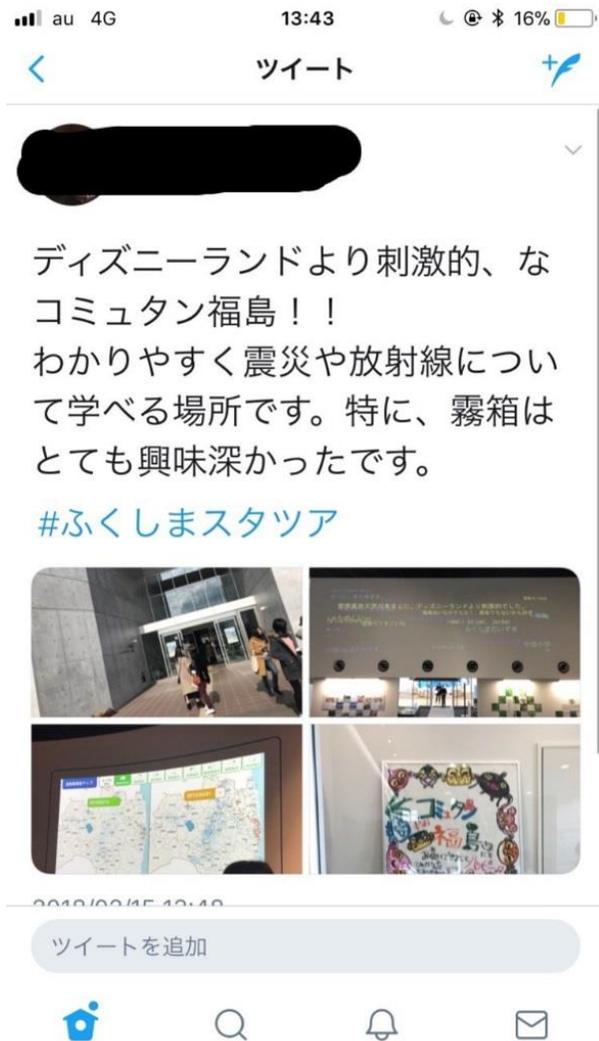


対象者：友人→→→幅広い年齢層

特徴

- ①140字短文、手軽
 - ②即時性、リアルタイム
 - ③リツイート、いいねで拡散
 - ④ネタ性、面白さ
 - ⑤コメントしやすい
 - ⑥情報源
- ⇒親近感ある魅力を発信しやすい

実際のツイート



④ ネット性、面白さを重視！！！！

非公開アカウントで特定の人向けに発信！

※「ふじこさん」とは同じサークルのお酒が大好きな先輩



Instagramの場合

対象者：親しい友人

+ # (ハッシュタグ) や位置情報で
ほかの人の投稿を検索

↓
いいね (♡)、保存する



Instagram

実際の投稿

きれいな（インスタ映えしそうな）写真を中心に投稿

最後に重い写真（今回で言うとふくしまの現状で、自分自身が強く印象に残ったみんなに伝えたい風景）をおく



ぜひクリックを押して投稿をご覧ください！

Facebook の場合



対象 社会人、留学生、友人など

- 特徴
- ①長い文章が書ける→多い情報量
 - ②写真をたくさん載せられる、コメントが書ける
 - ③社会人の目に多く触れる
 - ④イベントの告知、共有ができる（いいねで応援できる）
 - ⑤今はメジャーではない→中高生の目に触れにくい？

※実際の投稿は #ふくしまスタツア #Eでぜひご覧ください！！

② SNS以外の情報発信

- 今回のスタディーツアーは首都圏の大学（東京大学大学院、慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学、明治大学、法政大学、東洋大学、駒澤大学、成城大学、一橋大学、千葉大学、共立女子大学、上智大学短期大学部、立命館大学）を中心に29名が参加

そのうち **10名** が上智大学から参加

→大学の掲示板（Loyola）を見て、参加したという学生が多数！

・ 大学掲示板の活用

・ 今回のようなスタディツアーの募集を行う

+α 報告会を開き、その宣伝も掲示板で行う

(●月▲日、□時から～ 場所：○号館△教室

で「ふくしまに来て、見て、感じるスタディツアー」の報告会を行うのでぜひお越しください)

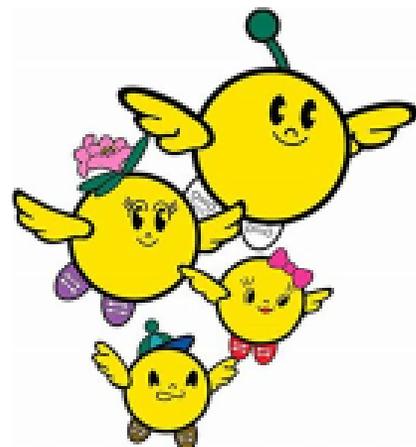


課題

気持ちはあるけど、正直学業や部活、サークルが忙しい…

いくらやる気があっても一人でやるには限度がある

継続するのが難しい



大学生だから色々なことに挑戦してみたい

でもやっぱり、福島のために自分たちにできる情報発信を続けたい

そこで……



楽しく、無理せず情報発信する方法を提案します

できる人ができるときにやっいていこう！

①スタディーツアー参加者でSNSアカウントの作成、共有

- ・個人でやるよりも多くのフォロワーを獲得できる
- ・福島に興味があるフォロワーも自分からフォローしやすい
- ・好きな時に福島について多くの人に向けて広報できる
- ・忙しい人もいいねやリツイートでシェアすることで簡単に発信のお手伝いができる
- ・多くの人からのいろいろな視点から福島の魅力をアピールできる
- ・発信者側も絶えず福島について興味を持つことができる



できる人ができるときにやっていこう！

②共通のタグを設定（例：#ふくしまスタツア）

- ・タグ自体をフォローできるため、福島についての投稿を手に入れやすい
- ・過去の投稿まで振り返ることができるので、多くの情報、魅力を知ることができる
- ・長文を打たなくても気軽に福島の魅力をアピールできる



スタディツアーを振り返って

- 「これまで原発事故や震災被害について考えることは、一学生の私にとってはとても難しいように感じていました。しかし今回のツアーを通し、福島を中心に活動されている方々は「食の安心」「地域コミュニティ」といったような、福島以外に暮らす私たちや多くの人々にも共通する身近な課題から復興に向けて取り組んでいると思いました。」
- ツアー参加前まで、自分にとって福島県は「震災で甚大な被害を受けた」「震災以前に戻るために復興を目指している」などマイナスなイメージを持ちながらも懸命に復興へ向けていたのではないかと思います。しかし、ツアーでの体験から目線で捉えていたのではなく、以前の生活より自活を通して暮らせるようなまちづくり・県の環境整備を目指していることに気づき、むしろ都市部の方が保守的ではないかと疑問を抱くようになりました。